

# 安心して私生活と両立できる 研究環境とは

2022年10月22日（土） 大学女性協会公開シンポジウム

教育・ジェンダー・共生～ユースの視点から見直そう これからの日本～

大学女性協会京都支部会員 一原 雅子

(総合地球環境学研究所 京都気候変動適応センター研究員)

[ichiharamasako@chikyu.ac.jp](mailto:ichiharamasako@chikyu.ac.jp)

# 本日の報告の流れ

## 1. 自己紹介

## 2. 現在の活動内容

- (1) 京都気候変動適応センターでの業務
- (2) 母としての日々

## 3. 現代社会が抱えている問題 – 一人の女性研究者として見えてくるもの

- (1) 研究界では
- (2) 育児・家庭生活面では

## 4. 自分にとっての課題

- (1) 優先順位と切替え
- (2) 状況のポジティブな意味づけ

## 5. 研究環境に求めること：次世代の研究者たちのために

- (1) 評価軸の多様化
- (2) 寛容な研究環境

## 6. まとめ

# 1. 自己紹介

3

一原 雅子 (いちはら まさこ)

2021年9月 京都大学大学院地球環境学舎修了（博士・地球環境学）。  
同年10月より、総合地球環境学研究所（地球研）・京都気候適応センターに勤務。  
R4は所内ハラズメント相談員も兼務

専門：気候変動訴訟、気候変動法制、環境法、国際法、日本国憲法

大学女性協会に入会した経緯：家庭と仕事を共に大切にしてきた義母のすすめ

京都市立桃山小学校PTA会長（2年目）

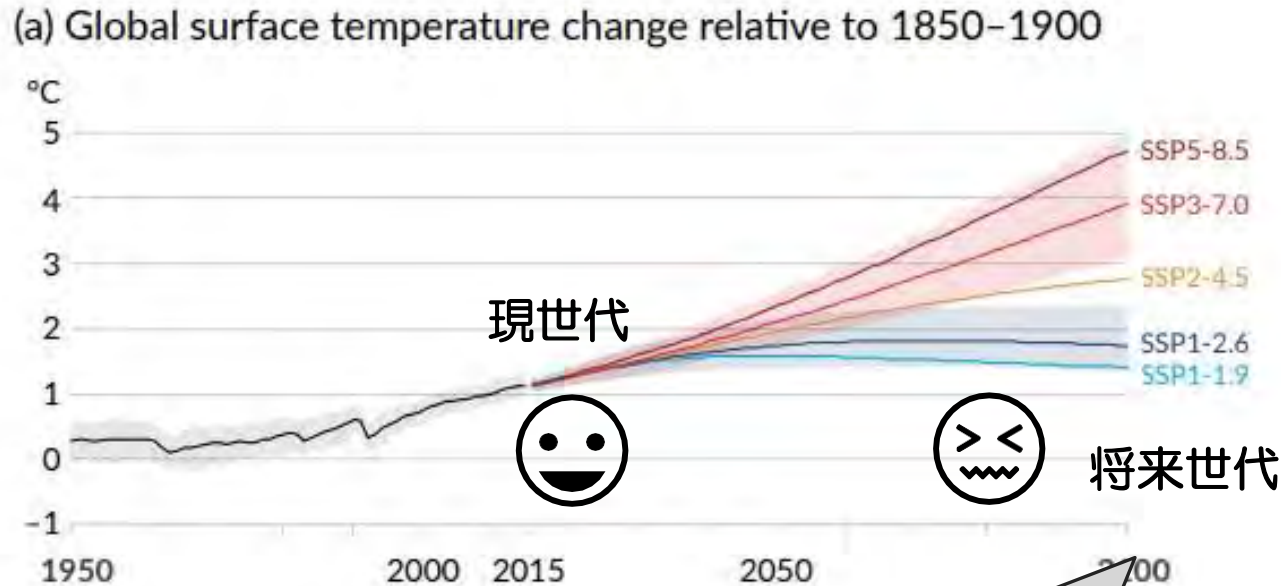
生活クラブ京都エル・コープ組合員として、再エネ普及活動等に従事  
京都府環境審議会委員、京都発脱炭素ライフスタイル推進チーム等、  
桃山エコ推進委員会（地域団体）等、多方面で活動

最近ハマっていること：こどもとUNO、お料理

# 2. 現在の活動内容（前提） 気候正義への問題意識

地域間・世代間の問題

1850-1900年の気温データに依拠して予測される世界の地表温度の変化



SSP=将来の社会経済の発展の傾向を仮定した共有社会経済経路

## 気候変動、「祖父の島は海の底」 ソロモン出身女性が日本に望むこと

有料会員記事

香取啓介、大野晴香 聞き手・香取啓介 聞き手・大野晴香 2022年2月11日 12時00分

シェア ツイート B!ブックマーク メール 印刷

コメントプラス

露木志奈さんのコメント



大型台風や干ばつ、海面上昇。気候変動に伴う大きな自然災害は、毎年のように起こり、今後はさらに厳しさを増すそうだ。これまでの家に住み続けることをあきらめ、移住を決断した人がいる。それは誰にとっても他人事ではない。国内外の当事者に話を聞いた。（香取啓介、大野晴香）

南太平洋のソロモン諸島で、海面上昇で沈んだ島の上の海に立ち、気候危機を訴えるグラディス・ハブさん=本人のツイッターから

気温が上昇すると…

- ・ 豪雨や台風のような激甚気象の増加
- ・ 熱中症の増加
- ・ 海氷・陸氷の融解や海水の膨張による海面上昇がもたらす陸地の水没（等）・・・が予測されている

[https://www.asahi.com/articles/ASQ2B4WMTPDDOIPE00Q.html?iref=pc\\_rellink\\_05](https://www.asahi.com/articles/ASQ2B4WMTPDDOIPE00Q.html?iref=pc_rellink_05)

## 2. 現在の活動内容

### (1) 京都気候変動適応センターでの業務①

京都気候変動適応センター  
Kyoto Climate Change Adaptation Center

気候変動について学ぼう センターについて 調査報告 府民のみなさまへ 事業者のみなさまへ 自治体・教育関係のみなさまへ 交通アクセス・お問い合わせ

Kyoto  
Climate  
Change  
Adaptation  
Center

— 京都気候変動適応センターは気候変動影響や適応策に関する情報収集・発信拠点です —

News

2022.08.8	「Q&A 気候変動と地球温暖化に関する講演会を受けて」のページを掲載しました。
2022.03.18	京都気候変動適応センター通信(創刊号)を発行しました。
2022.01.28	京都でいま、何が起きているのか!? — 京都における気候変動影響とその対応に向けて(2022年2月18日開催) — <動画を公開しました>
2021.12.16	ホームページを公開しました。

お知らせ一覧へ >

[kccac.jp](http://kccac.jp)

- ・地球研・京都府・京都市と合同で昨年7月に地球研内に設置
- ・京都地域の自然・社会への気候変動の影響と長期的な視点にたった変革的適応の可能性を探る研究・調査を開始
- ・合同で得られた成果を、京都府・京都市の気候変動適応策策定と実践に生かす
- ・京都での成果を、日本および世界の気候変動適応の研究と実践に発信

## 2. 現在の活動内容

### (1) 京都気候変動適応センターでの業務②

#### 気候変動対策：緩和と適応は車の両輪？

**緩和：**気候変動の原因となる**温室効果ガスの排出削減対策**

**適応：**既に生じている、あるいは、将来予測される**気候変動の影響による被害の回避・軽減対策**

#### 温室効果ガスの増加

化石燃料使用による  
二酸化炭素の排出など

#### 気候変動

気温上昇(地球温暖化)  
降雨パターンの変化  
海面上昇など

#### 気候変動の影響

生活、社会、経済  
自然環境への影響



#### 気候にレジリエントな開発

(Climate Resilient Development) 概念の提唱

(IPCC第6次報告書第2作業部会報告書)

＝気候変動に適応するための戦略と、温室効果ガスを削減するための行動を組み合わせたもので、排出量を削減し、すべての人のための持続可能な発展を支援するもの

- ・社会のあらゆる側面における日々の意思決定や政策に最優先されるよう、異なるシステム間の複雑な相互作用をうまく利用しつつ、ある分野での行動が他の分野に悪影響を及ぼさないように、また、その機会を利用して、より安全で公正な社会の実現に向けた前進を加速させるために、より安全でより公平な世界を実現するための進歩を加速させるための概念

(IPCC補足資料より抜粋)

## 2. 現在の活動内容

### (1) 京都気候変動適応センターでの業務③

7

#### 令和3年度の主な事業：府内全域の高校、事業所、個人へのヒアリング

##### 農林水産関係機関

京都市南部農業（農林業）振興センター  
（①南部，②北部，③京北・左京山間部，④南部洛西分室）

京都府農業改良普及センター  
（⑤山城北，⑥中丹東，⑦乙訓，⑧山城南，⑨南丹，⑩丹後）

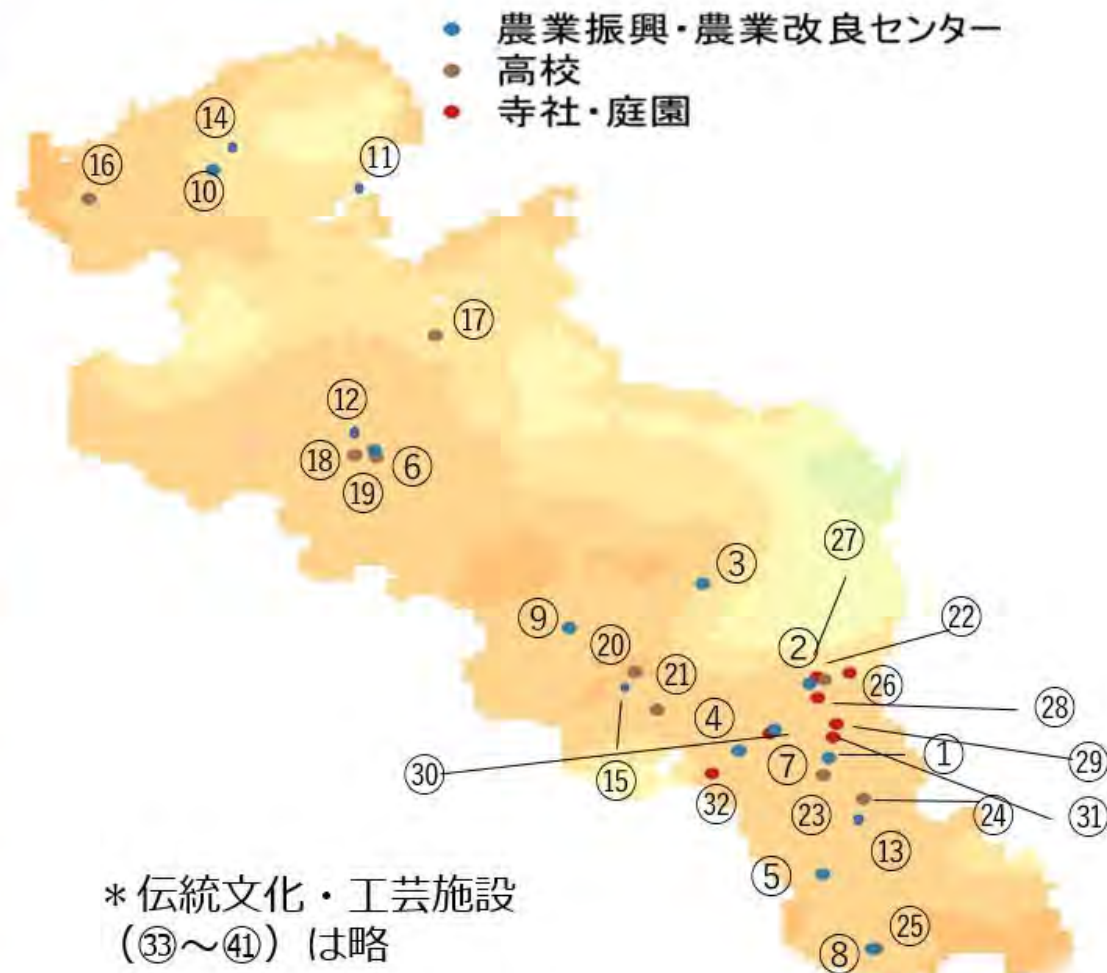
京都府農林水産技術センター（⑪海洋センター，⑫畜産センター，⑬茶業研究所，⑭丹後農業研究所，⑮農林センター）

##### 高等学校

⑯久美浜高校	⑰西舞鶴高校
綾部高校（⑱四尾山キャンパス，⑲由良川キャンパス）	
⑳南丹高校	㉑亀岡高校
㉒洛北高校	㉓桃山高校
㉔菟道高校	㉕木津高校

##### 伝統文化・工芸、寺社、庭園

㉖修学院離宮	㉗京都府立植物園
㉘京都御苑	㉙清水寺
㉚桂離宮	㉛今熊野観音寺
㉜善峯寺	㉝日本料理（山ばな平八茶屋）
㉞茶道（表千家）	㉟華道（末生流笹岡）
㊱西陣織（西陣織会館）	㊲日本酒（京都市産業技術研究所）
㊳漬物（京漬物福田本店）	㊴庭園（御庭植治株式会社）
㊵日本酒（佐々木酒造）	㊶漆工（京都市産業技術研究所）



\* 伝統文化・工芸施設  
（⑳～㉙）は略

（京都気候変動適応センター公式HP掲載資料より）

## 2. 現在の活動内容

### (1) 京都気候変動適応センターでの業務④

8

作物の種類

影響

稲作

- ・ 高温による登熟不良による一等米低下、不稔、収量低下
- ・ 台風や暴風による稲の倒れ・傷み（長棹種が多い酒米に顕著）
- ・ 暑熱による作業への影響（空調服活用、作業時間を夜間や早朝に変更）
- ・ 高温耐性米「京式部」の開発と栽培開始（令和2年以降）
- ・ 病害虫の増加（ウンカ、ジャンボタニシ等）

茶業

- ・ 凍霜害の頻発（温暖化による出芽の早期化＋寒の戻りによる新芽への影響等）
- ・ 日焼け
- ・ 病害虫の増加（チャゴケコナジラミ等の新種、害虫の越冬・活動時期の長期化に伴う被害時期の長期化）

京野菜・  
果物

- ・ 日焼け、結実不良（観修寺ブドウ等）、着果不良（ナシ等）、尻腐れ（トウガラシ等）
- ・ 着果不良（ナシ等）
- ・ 長雨による生育・着色不良（山科ナス、京野菜全般）
- ・ 実の充実不足（黒大豆等）
- ・ 病害虫の増加（カメムシ、ハダニ等）
- ・ ハウス栽培に伴う風水害増加と作業の過酷化



## 2. 現在の活動内容

9

### (1) 京都気候変動適応センターでの業務⑤

類型	説明	具体例
<b>歴史的な流通中心としての強み</b> 影響の回避と代替	京都が長い歴史をかけて培ってきた材料調達網や、都であり続けたことで全国から良質の品が集まってきた経緯から、ある調達先で気候変動影響により調達に影響が生じて、他の調達先で代替できることで、気候変動影響をまともに受けず、かわすことができる構造	<ul style="list-style-type: none"><li>・日本酒造り</li><li>・日本料理の食材</li><li>・活け花の花材</li></ul>
<b>伝統離れ問題の加速</b>	後継者問題や、若者のライフスタイル変化に伴う伝統文化離れといった既存の課題に、気候変動影響が拍車をかけている構造	<ul style="list-style-type: none"><li>・着物（西陣織）</li><li>・漆</li></ul>
<b>自然観の変化</b> 畏敬・親しみから脅威へ	気候変動に伴う季節感の喪失や季節の移ろい方の攪乱が、それらに深く根差す日本文化全般を通じて人々が自然に対して抱いていた「畏敬・親しみ」の意識を薄め、その一方で深刻化する気候変動の負の影響が人々の自然に対する意識を「脅威」へと変えてしまうことへの懸念	<ul style="list-style-type: none"><li>・庭園</li><li>・活け花</li><li>・料亭の庭園</li></ul>
<b>生物季節の変化による庭園・観光への影響</b>	サクラの開花時期・開花期間や紅葉の時期の変化による観光への影響（観光時期の重複など）に加え、獣害・大雨による影響も顕在化	<ul style="list-style-type: none"><li>・寺社・仏閣</li><li>・観光</li></ul>

(京都気候変動適応センター公式HP掲載資料より)

## 2. 現在の活動内容 (2) 母としての日々

### 母として担う役割

- ・ 子どもの行事関係
- ・ PTA (会長・2年目)
- ・ 病気対応を始め、イレギュラーな事態に対応するのはなぜか母な気がする・・・

一方で

### 母だからこそその幸せ

- ・ 子どもにみる日々の成長
- ・ 子どもからの応援
- ・ 昔の自分とかつての母
- ・ まず大切な人としての足場
- ・ 職場以外の世界

夫：公務員@単身赴任中（毎週末帰宅）

長女：小4

次女：小3

三女：保育園年長

# 3. 現代社会が抱えている問題

## (1) 研究界では

### 【近時見られるポジティブな変化】

- ・ ライフイベント期の支援（シッターさん利用補助等）
- ・ 学振RPDの制度、女性の登用支援
- ・ 女性である研究者の支援に特化した奨励金等
- ・ リモートワークの浸透
- ・ ハラスメント対策（通報制度、相談員設置等の浸透）

### 【現実の壁】

- ・ 圧倒的な可処分時間の差・まとまった時間があるからこそクオリティある成果物
- ・ ハラスメント制度を実際に機能させるための工夫が未だ足りない  
論文数がおお重要な評価基準
- ・ 職場での理解度には、差があり得る（研究室の雰囲気・独身男性がマジョリティの職場等）
- ・ 遠方出張や留学へのハードル（不在時の家庭について対策を講じる必要）
- ・ 研究会や学会の開催は平日夜か週末（保育園のお迎えが大変・週末は家は騒がしい）

# 3. 現代社会が抱えている問題

## (2) 育児・家庭生活面では

### 【未だに共働き家庭が前提となっていない】

- ・ 学校行事 + そのための係活動
  - ・ PTA
- ・ コロナ対応
- ・ 介護問題
- ・ 子どもの安全
- ・ 参観、学校行事に行けないというしろめたさ (?)

### 【PTAや組合員活動等を通じて知った日本の家庭での「あるある」】

- ・ PCは旦那さんのもの
- ・ 日常の買い物は奥さん、大きな買い物や電気会社は旦那さんに決定権
- ・ 介護・育児は基本的にまだまだ女性の役割
- ・ 母親コミュニティ内での無言の圧力・子どものための自己犠牲があたかも美德のように語られる

# 4. 自分にとっての課題

## (1) 優先順位と切替え

### ● 明確につけられない・つけるべきでもない優先順位

- ・ 比べるものではなくて、双方合って相乗効果があるべきものであるはず
- ・ トレードオフに目を向けすぎてしまうのは、負担に偏りがあるせいかも
- ・ 子どもたちの未来を守りたくて取り組み始めた気候変動問題
- ・ 研究者としての責任感、プライド、矜持は、すぐに可視化された評価と待遇につながる
- ・ 家庭人としてよいメンバーであったかどうかは、長い時間をかけてわかると同時に、あらゆる瞬間の積み重ねでもある
- ・ 切り詰められた家庭に割く時間内ではまず子どもが来る→他のメンバーにかけるゆとりがない

### ● 在宅の最大の課題：切替え

- ・ 研究はある意味全人生をかけて、常に考えている仕事
- ・ 細切れでできることと、長時間まとまって収集して生み出す成果物と
- ・ 子どもは今を生きている 「待ち」は基本的に無い

## 4. 自分にとっての課題 (2) 状況のポジティブな意味づけ

- ★強制的な隔離が**客観視の機会**をもたらす  
お風呂上がりのごどもの体を拭いていて、得る着想の数々
- ★少なくとも**朝晩はきっちり食べ、それなりにきっちり夜は寝る**  
夜のPCの切り時に歯止めがかかっているのは、ありがたいこと
- ★保育園の送迎のために**必ず家から出て陽光を浴びる**  
体内時計リセットと腰痛防止と、煮詰まったときのリセット  
・・・とはいつもいつもは、捉えられないのが現実

# 5. 研究環境に求めること：

## 次世代の研究者たちのために ①評価軸の多様化

- 研究者の素質の主要な評価基準が**単位時間当たり成果物の数**である現実を変える  
育児・家事にかかる時間をハンディと感じるような圧迫感があると、ゆとりをもって私生活を過ごせない →どのような方向性があるだろうか？  
家事・育児も何らかの形で評価対象（ポイント等）にできるのか  
研究者の側にも認識の変化が必要かもしれない（家庭を持つという選択）  
背後には日本全体のキャリア偏重文化もあるかもしれない
- 共同研究の枠組み等の有効活用の余地
- 同じ状況にいる研究者間が、多忙な中であまり時間を割かずとも連携できるような仕組みづくり  
= 大学女性協会若手の会の課題

### 【母親という立場にある研究者として社会の中に在ることの重要性】

- ・ 超学際研究：気候変動問題に、法律の視点を持って研究者として取り組むこと
- ・ 社会との接点は、子どもが増やしてくれる

### 【長期的に物事を捉えて今に意味づけをすることの重要性】

- ・ 子どもが世代を超えた視点を提供してくれる（目の前の子ども—将来世代—地球環境保全）

## 5. 研究環境に求めること： 次世代の研究者たちのために ②寛容な研究環境

- 子連れ出勤
  - 在宅推奨
  - 支援制度の充実（シッターさん利用費・あっせん等）
  - 平日夕方・週末は家庭に集中できるような研究会等のスケジュールリングを
  - 海外主張・留学には家族同伴ないし待機部分までの配慮を
- ...他にあり得るアイディアはあるだろうか？



## 6. まとめ

- 制度としては浸透が進んでいるが、**実際の壁**がまだまだある
- 現場の女性である研究者が、**日々の気づきをしっかり発信**して環境を変えていく重要性（当事者でなければ気づけない問題が多数ある）
- 女性研究者の絶対数の少なさ = まだまだ若い女性が **「将来なりたい職業」に研究者が上がってこない** 魅力的な職業とすることで、研究会のダイバーシティに貢献し、日本の学术界に貢献できる

ご清聴ありがとうございました